

窯器土屋

有田にはニューセラミックス研究会というのがあります。現在の会員数は、36団体46名。当社もその会員です。

この有田ニューセラミックス研究会は、昭和57年に①業務用・家庭用食器、②美術工芸品に次ぐ、有田の産業の第三の柱としてファインセラミックス分野を育てるために設立されました。

現在の会長は共立エレックス㈱の会長、副会長は2名で㈱香蘭社の社長と佐賀県窯業技術センターの所長です。

従来の陶磁器の延長線上ではなく、新しい産業分野として捉えるべきであるとの考え方から、当初は勉強会からスタートしました。その後は新しいセラミックス素材や陶磁器製品などの開発を行ったり、有田の企業のレベルアップを図るべくセラミックスから経営に至るまでさまざまな分野の講師をお招きしての講演会を開催したりしてきました。

私もこの会の活動に共感し、参加しています。企画の段階から呼ばれることもあり、打ち合わせに出席することもあります。中心となって活動されている会員さんたちの高い知識や交流の幅広さには圧倒されます。そういった準備過程も含めて、私にとっては非常に勉強になる場です。自分もそこに少しでも近づけるよう努力しなければなりません。

地元ではそのような活動がある中、佐賀大学にアドバンスト・ポーセリン研究所が設立され、これまでなかった有田地域産業との接点となる組織ができました。有田地域側の窓口となっているのが有田ニューセラミックス研究会です。

昨年、佐賀大学アドバンスト・ポーセリン研究所の先生方が有田地域の企業の見学にお見えになり、その中の一社として当社にもお越しいただきました。

■ 社長のフログ引越しました ■
<http://www.fromform.jp/blog/>

今年、有田ニューセラミックス研究会の会員が、佐賀大学の研究室を見学にお邪魔いたしました。

訪問当日、研究室見学会に先立ち、有田ニューセラミックス研究会西山会長・一ノ瀬副会長以下6名にて、佐賀大学学長への表敬訪問をさせていただきました。写真はそのときの様子です。

有田に対する学長の思いや、学長ご自身が医療分野で携わってこられた人工関節におけるセラミックスとの関わりなどのお話を伺い、佐賀大学アドバンスト・ポーセリン研究所に対する期待をひしひしと感じた次第です。

その後の見学会には22名が参加し、半日かけて7つの研究室をご紹介いただきました。

久しぶりに訪れるセラミックスの研究の最前線。その現場に触れて湧いてくる高揚感。

結果を求められる重圧感はあるのですが、整った環境での研究開発は羨ましかぎりでした。

佐賀大学では昭和54年以来約35年間、やきものからファインセラミックスにわたる教育研究を実施されており、学内にアドバンスト・ポーセリン研究所が設立された

ことによって、今後は新手法・新技術を取り入れた機能性磁器の開発を地場産業と共に行うことになるとのことです。

企画いただいた佐賀大学渡教授に感謝するとともに、大いに期待するところです。 刈野直幸



↑ 佛淵学長を囲んで記念撮影



暑い日が続きますが、くれぐれもお身体を大切にしてください

さがべん 佐賀弁講座 × 今号の1枚

- くらすっ 訳：叩く・殴る
- ごちゃ 訳：体
- こわる・こわー 訳：筋肉痛

例
昨日は、石ほびゃんくらせたけん
(昨日は、石をたくさん叩いたから)
ごちゃのごわってしもうた~
(体が筋肉痛になってしまった)

普通ならほとんどコワらないかと思いますが、私は下手くさで、頻りにしていきなないのでコワる感じがありません(汗)

特上を使う陶石は、すべて手作業で茶色い鉄の部分をはつりっています。手間と根気がいる作業です(;>) 吉村



この作業の様子はYoutubeにUPしてます。
<https://youtu.be/0c0v3Dv6tv4>

Check

毎月参加している藤屋伸二の創客塾の塾生仲間が本を出版されたので紹介したいと思っています。

「ちよっとだけ勇気を出して言葉の種まきをしてみませんか？」という問いかけから始まります。

「言葉の種まき」とは、ひと言を添えるだけで、相手との会話が驚くほど良好になる「コミュニケーションの魔法」とある通り「ひと言」があるかないかで相手との距離が全く違ってきますよね。

私もそれは実感します。では、どう実践するか？ その具体的な方法が例を挙げて書いてあります。

ちゃんと自分ができていたこと、そうそうと納得いくこと、

「面倒くさながら、すっ少す少すだけ言葉をかけることによってそれが積み重なり、やがて花が咲くことになりました。」この一文に背中を押される気がします。

刈野直幸

◆ オススメの1冊 ◆
雑誌力がアップする「ひと言」の魔法
水橋史希子



Youtube動画あります！

Youtube 刈野陶磁器原料
ぜひチャンネル登録お願いします！

* 新商品 追加しました！ *

[陶土屋さん]ホームページをチェック！！
<http://www.fromform.jp/>





スタンパー（キネとウス）のキネは鉄製で、ウスはすり鉢状にえぐれた地面をコンクリートで固めたものです。

このウスにあふれるくらいの石を入れて砕くので、キネで搗きたび出来る粉がウスをはみ出し、外へ広がっていきまます。広がつた陶石を2時間おきに真ん中に寄せる作業を「はわき込む」と呼んでいました。こ



会長さんの昔話

第10話

の作業には毎日たくさんのお手が必要でした。そこで昭和55年、この地域で初めてはわき込む作業の機械化に取り組んだのです。

まずは全スタンパーの3分の1に導入。お願いしたのは福岡の東邦設備さん。そこからの提案内容は、ウスの直径より少し大きなステンレス製の円柱をウスの上に置き、この円柱の内部には広がって行く石や粉を押し戻すための



↑昔の機械がない頃のウスはこんな感じ



↑この地域で大ヒット！現在も使用中のマキノ製の機械。掻きペラだけをモーターで動かします。円柱は動きません。



↑分かりづらいですが、掻きペラが粉を押し戻す真ん中に寄せています。

掻き板が固定してあるので、この円柱を定期的に回転させることで陶石を真ん中に戻すというものでした。

円柱を動かすのは油圧を使っていました。5m近くあるラチェット式のラックギヤには、押すときに

は固定され、戻るときには引っ込む爪が付いていて、ウス4つ分を1本の長いギヤが受け持ち、押し戻す円柱を動かすこと、やり方でした。

ところがこの方式、ギヤの爪の摩擦が早く、まともに運転できず、まともに運転でき

ぐに爪がすり減ってしまい、円柱を動かさない状態に陥るのでした。そうなるとうろくを真ん中に押し戻せず、上手く粉ができません。なので、頻繁に爪を交換しなければならい、とはいえ、ようやく機械で出来るようになった。

り、人力で行うよりはるかにラクになりました。その後ののくらくら経ってからの地元の牧野鉄工（現マキノ）さんが、わが社のものを参考に、わが社のものを少ない方式を考案。その機械を同業他社さんへ販売開始すると、多くの陶土業者が購入し、はわき込む作業が人手から機械へと変わり、この作業者の負担も軽減されていったのです。

その後、わが社もマキノ製を導入していき

渚野義則

人生初の宝塚公演を親に北九州へ行ってきました！私を誘ってくれたのは、小中同級生のサオリ。彼女は宝塚の公演やイベント事がある度に、兵庫だろうが東京だろうが、スッ飛んで行くほどのツカオタ(宝塚オタク)。これでも愛が足りないと言うのでビックリです。

公演の前日、『13:00に小倉駅集合』と約束しました。

ところが当日の朝、何度サオリに連絡しても応答なし。もしかして…

嫌な予感がしつつも、待ち合わせ場所に着きました。しかし、約束の時間が来てもサオリの姿は見当たりません。

電話をかけても留守電、LINEは既読すらつかない。もしかして…寝てる！？

あー!!!! そいうえば…休日のサオリは夕方まで起きないんだっただ…(泣)

その後、とれる手段のすべてを使って何度連絡しても、やっぱり返事は無い。

開演時間は18時。サオリが今住んでいる広島を、16時には出ななきゃ間に合わない！

とうとうタイムリミットの16時。諦めかけた、その時…

(ピロン)ケータイが鳴りました。急いで開くと、サオリからのLINE。内容は…『ピヨ。』というスタンプと、寝坊をして今新幹線に乗ったということだった。

開演時間30分前。駅の改札前で、眉間にしわを寄せて立っていた私に、おそろおそろ近づいてきたのはサオリ。彼女の顔を見たとき、ずっと我慢していた怒りが爆発しました。

私「今何時で思っどーとや！このフーケモンが!!」(※1)

サオリ「まじごめん。これ広島土産。」

私「ありがと。って…こがんことすっげ、もうやけえんじやっか!!」(※2)

美味しそうなお土産により、一瞬にして怒りの炎は消火されました。(単純)

そして、急いで会場に向かい、なんとが18時の開演に間に合いました。

後でなぜ寝坊したのか聞くと、前日の夜、カラオケで宝塚の曲を熱唱していたらしい。それも朝方の3時まで…。

私の中に再び怒りの炎が舞い上がった。

吉村 美穂



娘役の宝塚メイクをやってみたい

LINEスタンプ。ふざけすぎやん！



(※1) 今何時だと思ってるんだ！このバカ者が！！

(※2) こんなことしたら、もう怒れないじゃん！



なんだかんだ仲良しです！(笑)

おまけ ← 今度こそ感想です(´_`)



今回鑑賞したのは、☆星組公演☆の『大海賊 - 復讐のカリブ海 - (ミュージカル)』『Amour それは…』(レビュー)というものでした。

お芝居や歌、立ち振る舞いにとても魅了されました！

これを『美しい』というのか、と理解したと同時に、自分が同じ女だということが恥ずかしくなりました。

男役の方々は、男性より男らしくてカッコよくて…ついやってしまう、イケメン探し(笑)照なんか私、ツカオタ予備軍になった気がします。

じゃりんこ三木の見ている風景 ← 気まぐれ更新ブログ
http://ameblo.jp/toudoyasan-jarinko/



編集後記

今年宙組トップスターになった朝夏まなとさんは佐賀県出身！今度は宙組公演も観てみたいです！ 吉村美穂

このニュースレターは、これまでご注文いただいた方、サンプルをお送りしました方、名刺交換をさせていただいた方など、ご縁がありましたみなさまにお送りしております。必要ない方は、たいへんお手数ですがその旨を下記までご連絡ください。

